

「多職種・多機関の連携・協働によるコミュニティソーシャルワークの新たなステージを！」

《大正大学創立 100 周年記念慶賛》

今日の地域社会においては、単身・多死化社会、超少子化、人口減少が進む中で、複合的な課題や制度の狭間問題、子どもや親族によるサポートが期待できない事例や地域の生活環境の危機など多くの課題が全国的に広がり深刻化しています。

本セミナーは、2024 年に始まり、今年度は第3回となります。全体のプログラムでは、「多職種・多機関の連携・協働によるコミュニティソーシャルワークの新たなステージを！」とのテーマでシンポジウムを行い、最前線の実践者による実践報告から、コミュニティソーシャルワークにおける多職種・多機関の連携・協働の意義と今後の可能性と課題について探ることとします。地域の生活課題に対応するために、今後どのような職種や機関・団体等とどのように連携・協働を図るべきか、それぞれの地域の特性を踏まえて検討します。

さらに、全国各地域の意欲的・先進的なコミュニティソーシャルワークの実践報告、また、コミュニティソーシャルワークの入門ワークショップを企画しています。

このような企画を通し、全国の関係者が集い活発に討議し、コミュニティソーシャルワーク実践が地域住民の期待に応え、さらにパワーアップすることを目的として開催致します。

- 開催日時 :
 - 第一日目 2026 年 8 月 28 日(金)13:30~17:00
【コミュニティソーシャルワーク入門ワークショップは、同日 10:00~12:30 開催】
 - 第二日目 2026 年 8 月 29 日(土)10:00~16:00
- 会場 : 大正大学巣鴨キャンパス3号3階326教室
- 開催方法 : 対面とZOOMのオンラインによるハイブリッド方式
- 参加対象 : コミュニティソーシャルワーク実践に関する関係者、研究者・学生等
- 主催 : 特定非営利活動法人 日本地域福祉研究所
- 後援 : 日本地域福祉学会(予定)
- 参加定員 : 会場参加者 70 名、オンライン参加者 100 名(申し込み先着順)
- 参加費 :

区分	種類	2日間参加	どちらか1日
個人	一般	5,000 円	3,000 円
	日本地域福祉研究所所員	4,000 円	2,000 円
	大学院生・学生	2,000 円	1,000 円
団体	5 名まで (オンライン参加のみ)	15,000 円。6 名以上は、5 名ごとに 10,000 円追加	

- お申込み : 右の QR コードを読み取りまたは
クリックしてお申し込みください。
クレジットカードならびにコンビニ払いの場合、研究所
ウェブページを経由して Peatix お申込みページよりお
申し込みください。



- 申込締切予定日 : 2026 年 8 月 21 日(金)

プログラム

8 月 28 日 (金)

1 日目

10:00~12:30

【コミュニティソーシャルワーク入門ワークショップ】

ワークショップのみ、会場は 2号館3階社会福祉学科閲覧室 です 定員 25 名(対面のみ)

コミュニティソーシャルワーカー(地域福祉コーディネーター)として何をすればよいのか
コミュニティソーシャルワークの基本を学ぶミニ講義と参加者のモヤモヤを解消していくワ
ークショップを行います。

講師 : 菱沼幹男 (日本社会事業大学)
ファシリテーター : 洪心璐 (山口県立大学)、張夢瑤 (立正大学)、山崎禎広 (法政大学)

13:00~ 受付開始

13:30~ 開会・会場校あいさつ

・開会 あいさつ : 日本地域福祉研究所 理事長 宮城孝

シンポジウム

多職種・多機関の連携・協働によるコミュニティソーシャルワークの新た
なステージを！

進行：大石剛史（東北福祉大学） コメントーター：神山裕美（大正大学）、加山弾（東洋大学）

テーマ・登壇者

① 「多様な主体が参画する“協議体”の活動を通したケアリングコミュニティ創造実践」

栃木県那須塩原市 にしなすケアネット
(那須塩原市社会福祉協議会 生活支援課主任 柴田直也 氏
地域包括支援センターとちのみ 看護師 遠藤晃子 氏)

ネットワーク「にしなすケアネット」を展開。約2ヶ月に1回、テーマを設定して開催、2025年には50回を迎えた。あったらいいなという声から、認知症カフェ、不登校ひきこもり支援の会、第3の居場所「こども“夢”クラブ」、那須塩原市ケアラー協議会、ゲートキーパー養成講座、医療的ケア児者家族の会、共創による地域交通を考える会、高齢者とペットを支える会など、多くの社会資源が創出されている。

にしなすケアネット 50 回記念誌

<https://ns-shakyou.jp/structure/wp-content/uploads/NCN50.pdf>

② 「身寄りのない人を地域で支える『結（ゆい）サポート～くらし安心事業』の展開過程とネットワークの形成」

愛知県豊田市社会福祉協議会　くらし応援課副課長　大地裕介氏

身寄りのない高齢者等への支援や、災害時も念頭に置いた重層的な支援を推進しようと、豊田市と同市社会福祉協議会は、2025年12月に地元の医師会や生活協同組合など12の団体と協定を結んでいる。本報告では、2025年度から開始された「結（ゆい）サポート～くらし安心事業」が展開されるまでの経過と本事業の内容、また本事業等を通して、いかに市内の関係機関・団体との連携・協働を図ったかについて報告する。

③ 「コミュニティデザインを通じた住民との連携・協働による参加の場づくり」

宮崎県三股町社会福祉協議会　コミュニティデザインラボ所長　松崎　亮氏
(オンライン)

2018年4月、商業デザイナー等とチームを組み、こども宅食をローカライズした「みまたん宅食どうぞ便」を立ち上げ、コミュニティデザインによるアウトリーチの可能性を感じる。2019年4月より、「自分たちのまちを、自分たちで楽しく」をコンセプトに、宮崎県三股町社会福祉協議会内に重層的支援体制整備事業のもと「COMMUNITY DESIGN LAB.(コミュニティデザインラボ)」を立ち上げる。2026年現在201の活動、2123人の地域活動者を生み出し、地域住民の活動で、地域課題の解決を目指すミッションを掲げ活動中。<https://commulab.jp/>

17:00　終了

17:30～　情報交換会（別途有料）

8月29日（土）

2日目

コミュニティソーシャルワークの実践報告

（25分報告 15分質疑応答）

10:00～　[午前の部]

進行：田中悠美子（一般社団法人ケアラーワークス）　コメンテーター：大島隆代（文教大学）

10:00～10:40

① 「ゴミ分別カレンダー作成を通じた地域連携」

埼玉県入間市社会福祉協議会 第1層生活支援コーディネーター 小寺 惟 氏

10:40～11:20

② 「横断的連携による地域づくりに向けた行政の取り組み」

東京都杉並区在宅医療・生活支援センター地域ささえあい連携推進担当 野澤智美 氏

11:20～12:00

③ 「住民主体でつくるみんなの居場所～地域福祉活動拠点「結の里」の実践～」

宮城県南三陸町社会福祉協議会事務局長 高橋史佳 氏

12:00～13:00 休憩

13:00～ [午後の部]

進行：長谷川真司（山口県立大学） コメントーター：中島修（文京学院大学）

13:00～13:40

④ 「企業・大学・施設等のネットワーク『ゆるたまネット』で、子ども・若者の支援の推進」

東京都多摩市社会福祉協議会 地域福祉推進課長 大久保雅司 氏

13:40～14:20

⑤ 「地域にひらいた場づくり ～春日台センターセンターの実践～」

神奈川県愛川町 社会福祉法人 愛川舜寿会 馬場拓也 氏

14:20～14:30 休憩

14:30～15:10

⑥ 「愛媛県今治市伯方島での創作クラブ Grian の活動について」

特定非営利活動法人創作クラブ Grian 代表理事 田窪良子 氏
(オンライン)

15:10～15:50

⑦ 「(仮) 自治公民館と社会福祉協議会が綾なす地域福祉実践」

宮崎県都城市社会福祉協議会 地域福祉係長 下徳真吾 氏
(オンライン)

15:50～16:00

閉会あいさつ： 日本地域福祉研究所 副理事長 田中英樹

■ 会場（大正大学） アクセス案内

〒170-8470 東京都豊島区西巣鴨 3-20-1

【電車】

- 都営地下鉄三田線 西巣鴨駅下車 A3 出口 徒歩 2 分
- JR 埼京線 板橋駅東口下車 徒歩 10 分
- 都電荒川線 庚申塚駅又は新庚申塚駅下車 徒歩 7 分

【バス】

池袋駅東口から

- 都バス 6 番乗り場 西新井駅前行き、
北車庫前行き、新田一丁目行き
7 番乗り場 浅草雷門南行き
12 番乗り場 とげぬき地蔵前行き
13 番乗り場 浅草寿町行き

堀割バス停下車 徒歩 2 分



■ お問い合わせ:

NPO 法人 日本地域福祉研究所事務局

E-mail: jicsw@mx3.alpha-web.ne.jp URL: <https://www.jicw.jp/>

TEL: 042-850-8355